

浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム第2回運営委員会

令和8年1月13日(火)



1. 開会あいさつ
2. デジタル・スマートシティに関する取組報告（中間報告）

<課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実>

- ・ソリューションピッチ＆ミートアップイベント（第1回）

<若者の巻き込み>

- ・講師派遣制度

<Well-Beingの向上>

- ・ウェルビーイングアワード
- ・ウェルビーイングアイディアコンテスト

<交流の場の充実>

- ・デジタル・スマートシティ浜松フォーラム

3. 意見交換（天竜川水系におけるドローン航路の利活用、委員からの報告事項・提案等）
4. 副委員長からの意見

開会あいさつ



委員長（浜松市副市長） 山名 裕

1. 会議参加時

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

2. ご発言時

- **オンラインでの参加者**

「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。

- **現地参加者**

事務局からマイクをお渡ししますので、挙手にてお知らせください。

デジタル・スマートシティに関する取組報告（中間報告）



課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実
若者の巻き込み
Well-Beingの向上
交流の場の充実

官民連携PF会員間の連携促進等を目的に、ミートアップイベントを開催

開催概要

日時：令和7年9月9日（火曜日）15時～17時

会場：クリエート浜松 2階ホール

会員によるソリューションピッチ（9者）

登壇企業等	ピッチテーマ
株式会社LightNow（ライナウ）	産業保健（人事面談）業務特化型AI面談支援サービス
株式会社NOKIOO	ManabiBase
株式会社GreatValue	新たな福利厚生サービスと空き家活用
株式会社マクニカ	ネットワークカメラ×AIで創る次世代の安心・安全
中部電力株式会社	スマートメータ通信ネットワークによるスマートシティ基盤強化
NTT西日本株式会社	街×Sports DX ～マチスポ～
一般社団法人One Smile Foundation	笑顔が寄付に変わる！スマイラル
ノバルス株式会社	みまもり電池による地域見守り
株式会社杏林堂薬局	買い物難民対策としての『オンラインショップ出張所』

市の抱える課題の発表

部署名	課題
環境部 一般廃棄物対策課	ごみ収集車の運行支援、外国人へのごみ出しルールの周知・啓発

ソリューションピッチ＆ミートアップ（交流・連携促進イベント）

58名が参加

企業・団体 35名（21社）
浜松市役所 23名（10部署）



当日の様子（上：ピッチ、下：交流会）

参加者の声

大変満足、まあまあ満足の合計 82%

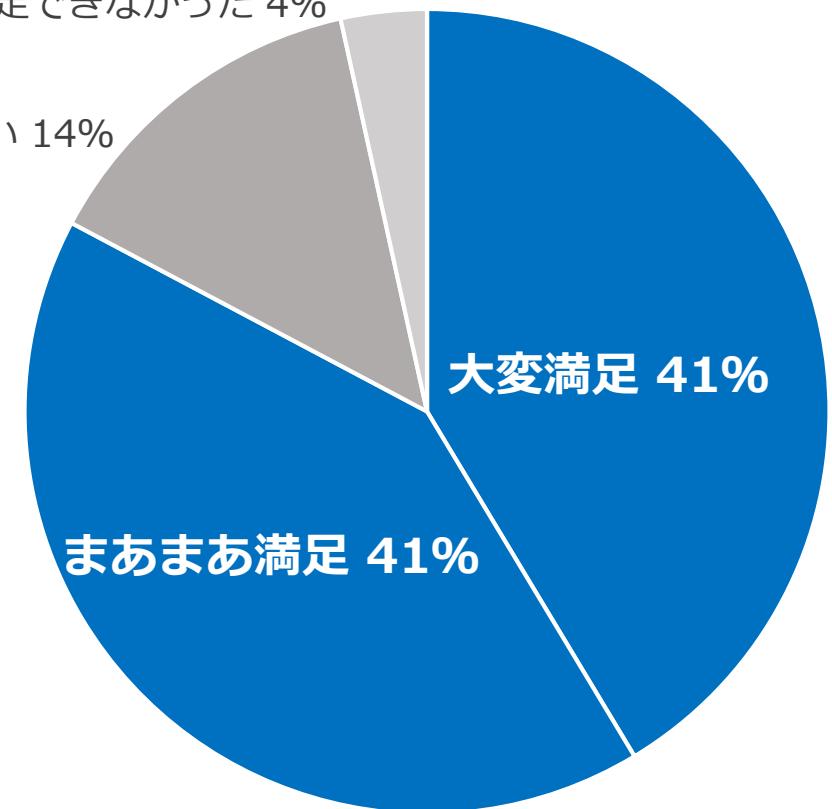
あまり満足できなかった 4%

どちらとも言えない 14%

大変満足 41%

まあまあ満足 41%

※参加者アンケート結果



デジタル・スマートシティに関する取組報告（中間報告）



課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実
若者の巻き込み
Well-Beingの向上
交流の場の充実

官民連携プラットフォーム会員が講師となり、市内学校の授業等で講座を開催

※令和7年12月末時点

■ 派遣先の対象

市内の小学4～6年生、中学生、高校生

■ 講師

官民連携プラットフォーム会員

9団体（9講座）

■ 講義内容

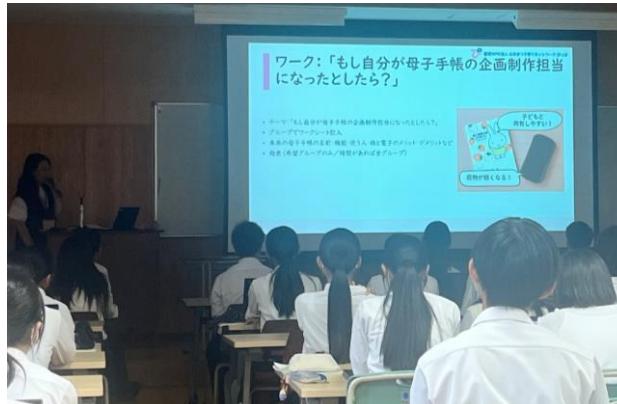
- デジタル・スマートシティ浜松について
- 各分野（各団体）の取組紹介

■ スケジュール



講座開催状況 (令和7年12月末時点)

No	開催日	講座名	講師団体	学校名	学年・人数
1	6月16日	デジタル技術の変革による生活の変化を知ろう (Society4.0から5.0へ)	遠鉄システムサービス株式会社	浜松市立赤佐小学校	小学4～6年生20人
2	6月26日	ミライの社会を覗いてみよう！	ソフトバンク株式会社	浜松市立瑞穂小学校	小学6年生146人
3	9月30日	子育ての課題をデジタルで解決する	はままつ子育てネットワークぴっぴ	静岡県立天竜高等学校 [総合学科]	高校1年生80人
4	10月16日	ミライの社会を覗いてみよう！	ソフトバンク株式会社	浜松市立三ヶ日西小学校	小学6年生60人
5	10月30日	ドローンと私たちの社会生活について	株式会社トラジェクトリー	浜松市立三ヶ日西小学校	小学6年生60人
6	11月17日	デジタル技術の変革による生活の変化を知ろう (Society4.0から5.0へ)	遠鉄システムサービス株式会社	浜松市立尾奈小学校	小学4～6年生15人
7	1月14日 (予定)	地理情報 (GIS)	株式会社フジヤマ	静岡県立天竜高等学校 [森林・環境科]	高校2年生24人



9/30 天竜高での講師派遣の様子
(グループワーク「母子手帳をつくるなら紙?電子?」)



10/30 三ヶ日西小での講師派遣の様子
(ドローンの見学)



11/17 尾奈小での講師派遣の様子
(生成AIを使ったイラスト作成)

デジタル・スマートシティに関する取組報告（中間報告）



課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実
若者の巻き込み
Well-Beingの向上
交流の場の充実

はままつWell-Beingアワード2025

浜松市のWell-Being向上に資する企業・団体のサービスや取組を表彰

はままつWell-Beingデザイン賞 表彰3件

浜松市民の幸福感向上に良い影響をもたらすことが期待される取組やサービスのうち優れたもの

企業・団体	取組・サービス
プロギング静岡	プロギング静岡～ポジティブな力で足元から世界を変える環境×健康コミュニティ活動～
株式会社杏林堂薬局、 DP SIM Support ※連名での受賞	杏林堂オンラインショップ 水窪出張所
浜松磐田信用金庫	部活動応援プロジェクト「ガンバレ！部活動」



はままつWell-Beingアワード表彰式の様子

本市のWell-Being向上に資するアイディアを浜松市と関わりのある学生から募集

概要

- Well-Being 指標を若年層にとって親しみやすいものにし、住んでいる地域の将来について「自分ごと」として考えるきっかけにしてもらう趣旨で開催。
- スタートアップ推進課の実証実験サポート事業を活用し、(株)LODUとの連携の形で実施。
※座組 主催：(株)LODU、協力：浜松市
- エントリー検討中の学生向けに、**コレクティブ・インパクトゲーム**（Well-Being指標を活用したまちづくり体験ゲーム）**を活用したワークショップ**を行い、エントリーを後押し。

対象

浜松市と関わりのある中学生、高校生、大学生、大学院生、専門学生
「中学生・高校生の部」「大学生・大学院生・専門学生の部」に分けて募集

募集内容

実現したい2045年の浜松市の姿のキャッチコピー
及び その**実現に向けた取組のアイディア**

事業 スケジュール

募集期間 7月25日（金）～9月30日（火）

選考 10月～11月

結果発表 12月26日（金）



学生対象のWell-Beingアイディアコンテストの審査結果

中学生・高校生の部

賞	受賞者名	受賞者の所属	作品タイトル・キャッチコピー
最優秀賞	山名 悠希	浜松市立 西部中学校	『佐鳴湖でランニング苗木駅伝』 ～音と緑と好きな植物で学び道～
優秀賞	該当なし		

大学生・大学院生・専門学生の部

賞	受賞者名	受賞者の所属	作品タイトル・キャッチコピー
最優秀賞	内山 梨瑚	愛知淑徳大学	『市民参加型プラットフォーム「やらまいかダッシュボード」』 ～一人ひとりの声が育てる、未来型防災シティ浜松～
優秀賞	片岩 拓也 大川 貴久	静岡大学	『移動から始めるwell-beingの再設計』 ～山里を日常圏へ～

浜松市ウェルビーイング アイディアコンテスト

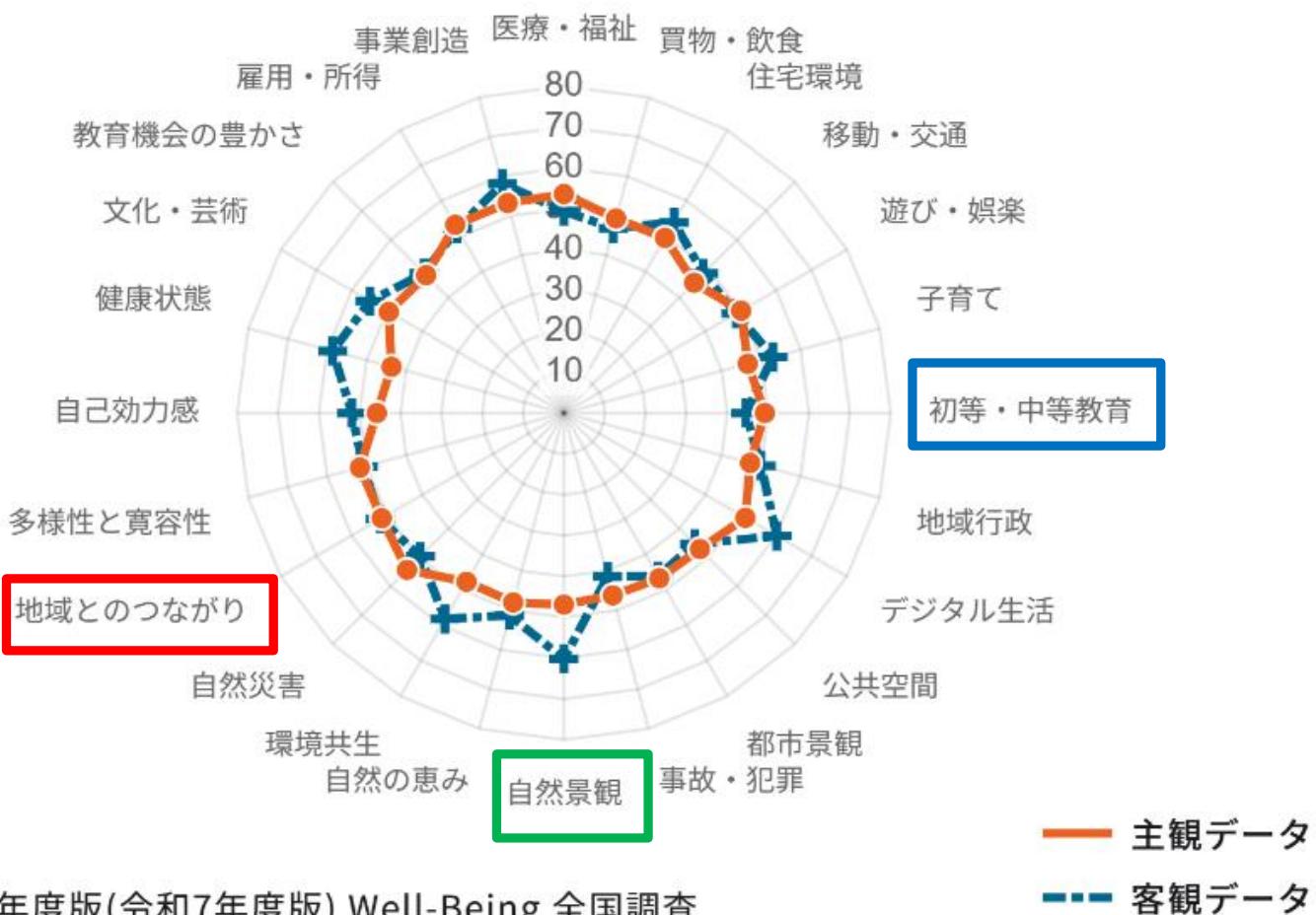


写真提供:浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

【浜松市立西部中学校・山名悠希】

Well-being指標で「重視した因子」

カテゴリー別



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

カテゴリ・評価指標	主観データ 偏差値	客観データ 偏差値
医療・福祉	53.6	49.4
買物・飲食	49.3	46.8
住宅環境	49.5	53.9
移動・交通	45.1	48.3
遊び・娯楽	50.1	48.7
子育て	46.6	53
初等・中等教育	49.2	44.5
地域行政	47.2	50
デジタル生活	51.3	60.2
公共空間	47.1	45.3
都市景観	46.7	46.1
事故・犯罪	46.2	41.4
自然景観	46.9	60.2
自然の恵み	48	51.3
環境共生	47.7	58.2
自然災害	54.3	49.7
地域とのつながり	51.5	51.9
多様性と寛容性	51.7	50.9
自己効力感	45.8	51.9
健康状態	43.7	58.6
文化・芸術	49.5	54.8
教育機会の豊かさ	47.7	48.4
雇用・所得	53.2	52.2
事業創造	53.2	58.1

Well-being指標で「重視した因子」

16

◆自然景観

- ・現状、客観指標は50以上だが、主観指標は50以下である。
そこで、市民がより自然を意識し、主観指標を向上させたい。
- ・まちの中に自然があり、身近にそれを感じられるようにしたい。
- ・道路には街路樹がある状態がいい。

◆初等・中等教育

- ・現状、主観・客観の両指標はいずれも50以下であり、指標を伸ばすことが重要だと考えた。
- ・自分も将来の子どもたちも、快適で楽しく学べる空間がほしい。
- ・謎解き風の仕掛けやイラストを多用し、楽しみながら学びたい。

◆地域とのつながり

- ・現状、主観・客観の両指標はいずれも50以上で強みであるため、さらに磨きをかけ、積極的にアピールするといいと思う。
- ・みんなで協力できる催しが、数多く開催される町に住みたい。

キャッチコピー

音と緑と好きな植物で学び道

概要

学校・商店・自治会が連携し、通学路などの道を“学び道”に変えていくアイディアです！

具体的には

(1) 通学路などでは・・・

みんなが育てたい植物を公募し、
家庭・学校・店先などで育てます。

そして、その植物に、
ちなんだ音声を聞くことができる
QRコードを付けた「解説パネル」
を付けて、街路に植えます。

(植物をイメージした音、鳥の声、虫の音、自然に関する歌などを聞くことができます)

（2）散歩道、ランニングコースでは・・・

佐鳴湖の周回コースで「苗木駅伝リーグ」を定期的に開催！

全世代の市民がリレー走と植樹・水やり・清掃を組み合わせた活動を行います。

参加者には、リレーのタイム、走行距離、植樹活動の参加実績に応じてポイントが与えられます。そのポイントは、年齢も考慮したポイント制で、そのポイントを集めることで地元食材券や記念品などがもらえます。

活動後には、参加者のみんなで、湖畔にてピクニックを行い交流を深めます。

◎5W1H

When：週1回・土曜朝60分（春・秋に開催）

Where：佐鳴湖公園周回コース（東岸広場スタート＆ゴール）

Who：市民（全年代）、学校、自治会、地元飲食店・企業ボランティア

What：リレー走+植樹・水やり・清掃、湖畔ピクニック、QR解説パネル設置

Why：運動×緑化×食で地域のつながりを強化し、継続参加を促す

How：専用アプリでタイム/距離/保全ミッションを自動集計し、景品付与
(地元食材券や記念品)。

必要に応じて、誘導員配置・救護体制を整える。

目指すところ

このような取り組みにより、「自然景観」「初等・中等教育」「地域とのつながり」といった地域幸福度（Well-being）の因子を向上させます。



画像提供:いらすとや

ウェルビーイングを実感できる未来を目指して！
ご清聴いただき、ありがとうございました。



写真提供:浜松・浜名湖
ツーリズムビューロー



静岡大学情報学部
片岩拓也／大川貴久

山里を日常圏へ

移動から始める well-being の再設計



Q

キャッチコピー：「山里を日常圏へ」

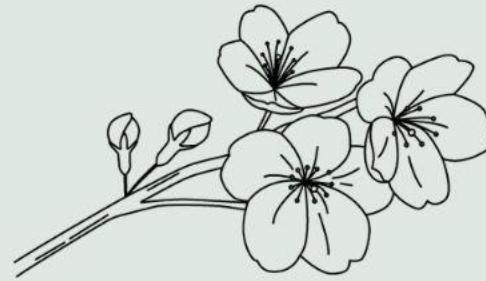
目指すべき世界

アクセシビリティ格差を縮め、市民全員の生活圏を重ねる

中山間地域

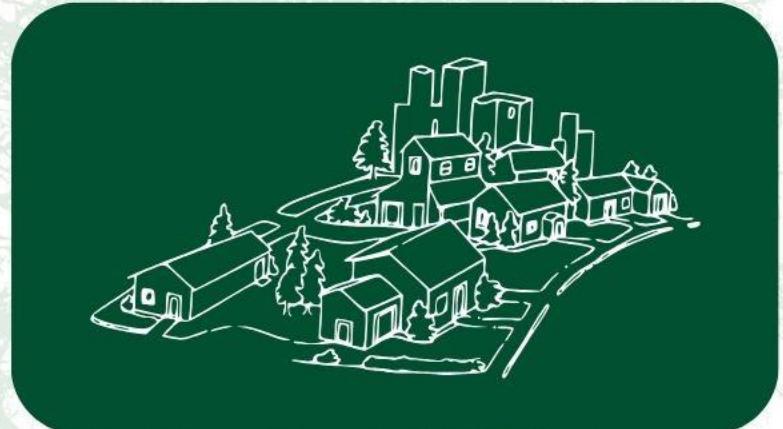
社会インフラへのアクセシビリティ向上

中央区



山里

自然に立ち戻り、生活に一息を



都市部



01

現状の課題

中山間地域は市街地より満足度が低い。

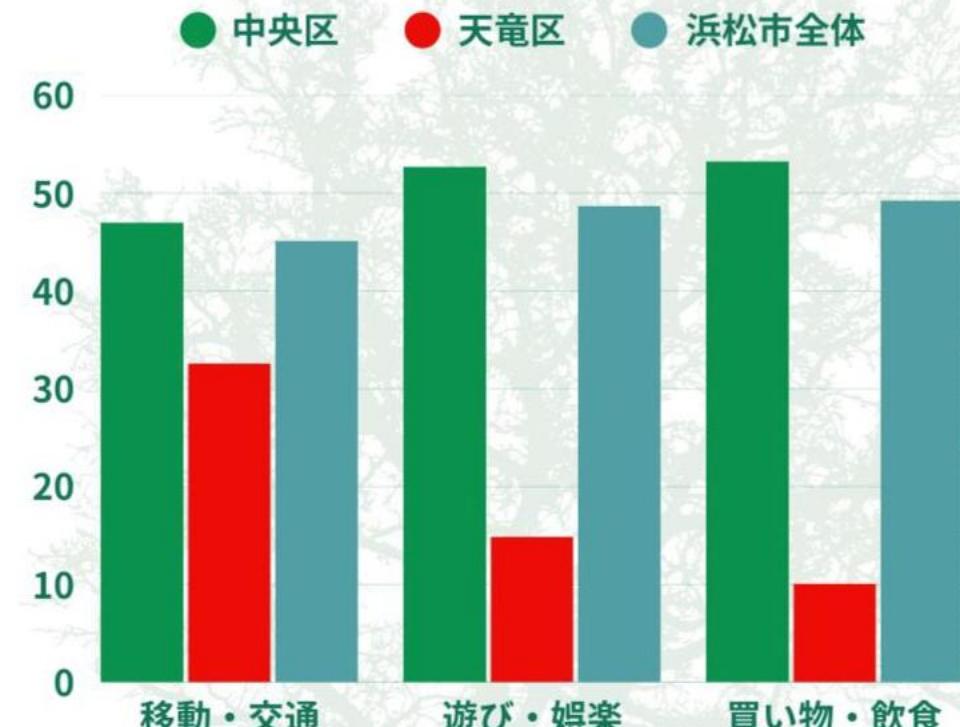
実際に北部天竜区は、中央区と比べWell-Being指標
(生活への満足度) に大きな差がある。

特に「移動・交通」「遊び・娯楽」「買い物・飲食」の低さが市全体の幸福度を下げている。

※Well-Being指標とは？

デジタル庁が公開している、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を数値化・可視化する指標。

全国の市区町村の平均を50として22の指標について、主観・客観ともに数値化している。



01

現状の課題 - 任意移動

幸福度が低い理由は、交通にある？ 「これからも浜松に住みたいと思わない」理由

(上位3つ,複数選択可)

「これからも浜松に住みたいと思わない」理由として
 「休日などに遊ぶ場所が充実していないから」（「遊び・
 娯楽」「買い物・飲食」に関係）があった。

実際の声

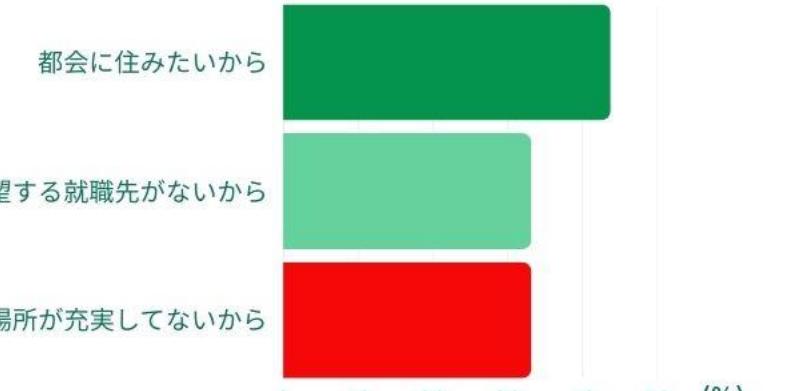
『地方創生に関する若者座談会』より



車社会なので車が無いと
 移動のハードルが高い



駅からのアクセスは良いが、各観光施設
 をつなぐ交通網が少なく、交通手段が偏
 っている



令和6年度「若年層アンケート」結果より作成

「遊び・娯楽」「買い物・飲食」の満
 足度の低さは、交通手段の利便性
 に起因している？



01

現状の課題 - 必須移動

バスがカバーできない広大な面積

天竜区は面積が広大だが、居住している住民の数は少なくバスが非常に使いにくい。

実際に水窪地域においては「水窪ふれあいバス」が運航しているがその本数はかなり限られており、基本的に週二回・一日4本の運行にとどまっており、運行間隔も長い。

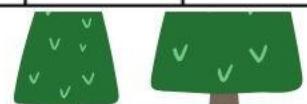
車の運転が難しい高齢者が問題を抱える要因



池島線 【遠木沢行き】

①

運行日	便数	上下方向	小畠
火・木	1 便	←←←	7:57
火・木	2 便	→→→	13:12
火・木	3 便	←←←	14:10
火・木	4 便	→→→	17:06



02

アウトカム

必須移動（通院・買い物・行政手続）

生活拠点から基礎サービスを受けるまでの時間を縮め、「時間をかけないと用事が成立しない」という事象を減らす。

予約・乗継・待ち時間の不確実性を下げ、“行けるかどうか”ではなく“予定に組み込めるか”的問題に変える。

これにより、医療・買い物・行政手続・学び・交流へのアクセス頻度が下がっていく連鎖を弱め、外出を控える意思決定を減らす。

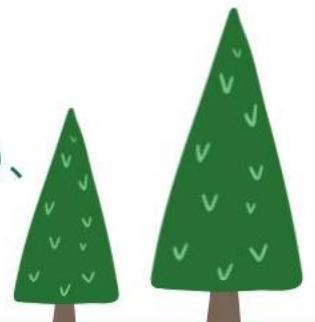
well-being指標のうち「移動・交通」「買い物・飲食」「地域行政」など、生活に関わる分野のスコア向上を図る。

任意移動（遊び・娯楽／余暇・自然・学び）

都市と自然が同一市内に共存する浜松の特徴を前提に、中山間地域を「日帰りできる余暇の選択肢」として日常の一部にする。

中山間地域側にとっては、都市側の余暇需要が流入することで、交流や活動機会が増える。

「遊び・娯楽」は、天竜区と中央区の満足度差の中でも市全体の幸福度を下げる要素として示されており、任意移動の改善はwell-being改善の対象になる。



02

アウトカム

到達目標

市街地と中山間地域への移動時間を半分

Well-Being指標

「移動・交通」

偏差値 (主観)

「遊び・娯楽」

50 ↗ 55

45 ↗ 60

「買い物・飲食」

49 ↗ 55

60

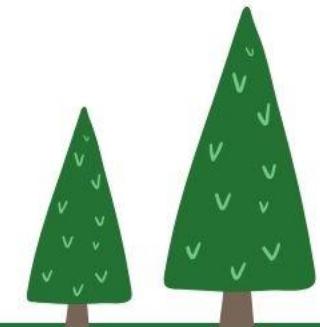
「自然景観」

46 ↗ 55

浜松市のwell-being指標のうち、中央区と天竜区でスコアが大きく異なっている4カテゴリに注目。

到達目標を達成することで、生活拠点－生活インフラの時間のアクセシビリティを改善することを期待する。

山里を「日常圏」へ



03

ソリューション

シェア交通の導入

人々が限られたモビリティリソースを分け合って、
より広くラストワンマイルを実現する次世代型交通システム



×



シェアライド

必須移動

シェアサイクル

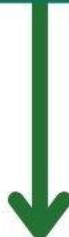
任意移動



03

ソリューション

交通

人口動態
地理条件シェア交通の仕組みづくりによって、目標達成を目指す

電動自転車シェアやライドシェアを導入し、都市部と中山間地域を結ぶ新たな移動手段を確立する。これにより、都市部から地域までの移動時間を現行の90分から45分へ短縮し、通院・買物・観光の利便性を大きく改善する。

波及効果によって、生活の質を改善し、well-being向上へ

車や電車以外でも手軽に移動できるようになることで選択肢が増え生活の質を向上する。さらに、大学との連携により学生が調査や改善に継続的に関わり、若年層の地域参画を促進。結果として交流人口や定住人口の増加につながる。また、地理条件の制約克服にも寄与する。点在する集落をシェア交通でネットワーク化し、孤立を防止。自然・文化資源へのアクセスも改善され、観光や経済活動の基盤が広がる。



04

フェーズごとの流れ

フェーズ1

中山間地域の現状の周知

フェーズ2

課題の改善基盤の作成

フェーズ3

これまでの活動の継続による成熟

必須移動

- ・通院・買い物などで起きている不便を、事例と指標で共有
- ・「時間が読めない／行き帰りが不安」を共通の課題として整理

- ・使い方が迷わないように、連絡先と手順（予約・相談）を統一
- ・利用の記録（回数・時間帯・待ちの有無・困りごと）を残し、改善に生かす

- ・幹線＋末端の役割分担を固定し、アクセスを平準化
- ・運用ルールと担い手を地域で回る形にし、継続運用

任意移動

- ・都市と自然が共存することを踏まえ、「市内で遊びに行く先」を整理
- ・日帰りで成り立つ条件（所要時間・季節・受入条件）を共有

- ・都市部→中山間への行き方を整え、遊び・娯楽として選べる状態を作る
- ・参加者と地域の声を集め、継続の条件（時間・頻度・負担）を固める

- ・中山間地域が都市部の「日帰りの娯楽／余暇」の選択肢として定着
- ・交流の流れを安定させ、地域側の受入も無理なく続く形にする

05

他プロジェクトとの相関

本提案は行政計画構想を踏み込んで具体化し、親和的に浜松の未来を共創します

1. 浜松市中山間地域振興計画

19の主要施策のなかに「地域の交通手段の確保」「社会基盤格差の是正」が存在し親和的。

本プロジェクトは、これらの施策目標を、学生や地域住民が主体的に参画する形で**具体化する役割**を担う。
交通手段の実証、地域連携、モビリティ基盤の創出を通じて、計画の理念を現場レベルで形にしていく。

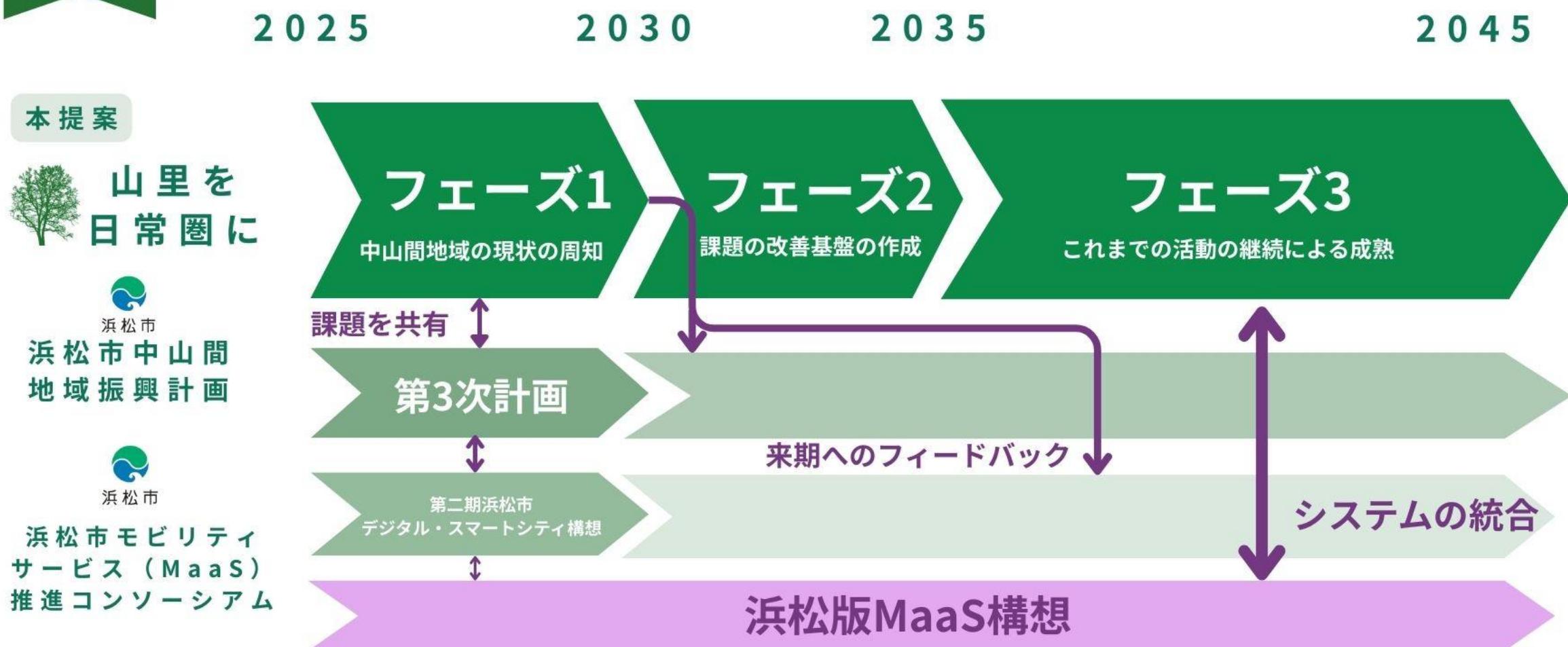
2. 浜松市モビリティサービス（MaaS）推進コンソーシアム

第二期浜松市デジタル・スマートシティ構想として「移動データ等の利活用による地域課題の解決」を掲げている。さらに、浜松MaaS構想では「誰もが使いやすい移動環境」「観光・食資源との連携」などがイメージとして示されている。本プロジェクトは、観光スタンプラリーや電動自転車シェア運行などを通じ、住民および外部人材を巻き込み、単なる実証実験にとどまらない**持続可能な構造を築き**、プロジェクトを一過性で終わらせらず、地域のモビリティ基盤を拡張する役割を果たす。



06

フェーズごとの流れと、他プロジェクトとの相関



実行者

片岩 拓也

Takuya kataiwa

静岡大学情報学部情報社会学科に入学後、研究や課外活動を通じて社会実装を目指している。浜松市の中山間地域についての問題意識を持ち、東京大学が主催する Challenge Open Governance (COG2024) に出場し、天竜二俣の情報格差問題を論じ、セミファイナリストに選ばれた。また、内閣官房が主催する行政改革アイデアソンハッカソンではデータ利活用部門賞を獲得し、デジタル大臣からも高い評価を受けた。



実行者

大川 貴久

Takahisa Okawa

静岡大学情報学部行動情報学科に入学後、浜松市をはじめとする地域課題に关心を持ち、データやデジタル技術を活用した Civic Tech の実践に取り組んできた。行政や地域を対象としたアイデアソン・ハッカソンに参加し、内閣官房主催の行政改革アイデアソン・ハッカソンでは、データ利活用部門賞を受賞した。



移動から始める、浜松を変える

ありがとうございました

デジタル・スマートシティに関する取組報告（中間報告）



課題解決に向けたアイディアとソリューションの充
実
若者の巻き込み
Well-Beingの向上
交流の場の充実

デジタル・スマートシティ浜松フォーラム

テーマ	官民連携で実現するデジタル・スマートシティ浜松
開催概要	<ul style="list-style-type: none"> 日時 2026年2月13日（金）14:00～17:00 場所 Co-startup Space & Community FUSE 開催方法 ハイブリッド開催（現地+オンライン配信） 参加費 無料（定員：50名※先着順、オンライン制限なし）
プログラム 及び 登壇者	<ul style="list-style-type: none"> 基調講演 越塚 登 氏(東京大学 教授) 浜松市フェロー講演 白坂 成功 氏 (浜松市フェロー) パネルディスカッション 越塚 登 氏、白坂 成功 氏、東 博暢 氏 (浜松市フェロー)、 山浦 篤 氏 (株式会社フジヤマ)、 辻 早紀 氏 (一般社団法人One Smile Foundation)

